

日本語教室の各地の特性を探る

■えひめJASL

野山 引き続き田中さんから発表していただきたいと思います。「えひめJASLの発展の歩み」ということで、これまで続けてきた背景、要因なども含めて説明していただければと思います。

田中喜美代 本日は「えひめJASL」創設者として、そして現在の研究部長としてJASLの歩みについてご紹介できたらと思います。創設とそれから現在の組織、そして現在私どもが行っております会議、それから発展の過程、その発展の要因は何かということについてお話しさせていただきます。

◆ きっかけは外国人からの提言

創設は、実は松山市国際交流センターに英語ボランティア・ガイド・クラスというのがありまして、そこの講師、米国人ですが松山市の国際交流に多大な貢献をしている人ですが、彼女が「田中さん、外国人がすごく日本語を勉強したがっているよ、そういう団体をつくってみたらどう」と声をかけてくれました。当時、愛媛県には日本語学校もありませんし、日本語を勉強する団体というのでもありませんでしたので、みんなすごくやりたいという人が集まりました。そのときに考えたのは、慈善事業ではなく学習支援活動であるので有償ボランティアにしようということです。無料でなければいけないという意見もありましたが、両方が責任感を持つために、少ないけれどもお互いの支援金ということで、受講生からはお金を払っていただくことにいたしました。



田中喜美代

そして、外国人に教えるための「日本語研修会」という会を発足いたしました。当時、愛媛大学などで日本語を指導し

ている大学の先生方のアドバイスを心得て発足いたしました。外国人の民主主義的な考え方も学び、あるいは国際日本語普及協会（AJALT）なんかに出向きまして、組織というものをつくらないと長続きしないというような助言もいただいたことがあります。

◆ 会則に基づく合議制で運営

発足後、1989年に愛媛県国際交流センターが創設され、私はその国際交流相談員として働くことになり、そのときに「愛媛国際日本語研修会」という名前に変え、さらに名前が少し硬いものですから、それではと「えひめJASL＝ジャパンーズ・アズ・ア・セカンド・ランゲージ」という名前にいたしました。県国際交流センターおよび私どもの理念は、地域の国際化で、会員たちは日本語教育を学ぶ生涯学習の場としてのJASLと位置づけたわけです。

現在は賛助会員といまして、レッスン活動はしないで日本語教育について指導したりあるいは勉強したりする会員が57人、そして活動会員が32人、この32人はレッスン活動を実際に行います。私どもが一番自慢したいのは会則が非常に整っていることで、法学部出身の人もいますから、みんなで討議して現在、会則は13章23条に付則、細則がありまして、何か問題がありましたらその会則に照らし合わせて合議制で会を進めていくという、これが最大の売りではないかと思っております。

その会則に従って事務局、研究部そして活動部という部署で構成されております。事務局の方は会長および事務局長で、私が部長をしている研究部は、各種勉強会、勉強会はいろいろなことを研究したり模擬授業をしたりする会で、その統

括をしております、地方から先生方をお呼びした研修会の企画などを実施しております。2007年度は東外大の伊東祐郎先生にお越しいただきまして、とても有意義な研修会を開催させていただきました。活動部は、実際にプライベートレッスン、これは1対1のレッスンですが、それとクラスレッスンというのを実施しております。必ず



年に1回の総会とそれから毎月1回各部署から、役員が出て運営委員会を開き、その決議に従って運営をしています。

◆「日本語ラリー」などプログラムの工夫

発展の過程として、まず初めに人がそろっていたということ、外国人の最初の提案もよかったし、それから学びたいという外国人もたくさんいてくれた、そしてちょうどALT（Assistant Language Teacher）の人たちがたくさん愛媛県に来てくれるようになった時代でありました。それから教えたいという人たちがそろっていたということ、また、時流としては、タイミングが非常によかった。県および市が国際交流を強く推進しようとしている時期でして、そういうところへはぜひとも外国人がたくさん来てほしい、それから日本人もたくさん来てほしい、そういう動きがある中で発足いたしました。県国際交流センターにはたくさん研修室がありまして、広い駐車場があります。これが全部無料で私どもが使わせてただけで、こういうことに恵まれておりました。最初は地域も巻き込まなければいけないということで、「日本語ラリー」というのを実施しました。これは地域のある病院を借り切りまして、そこの休診日に医者とそれから看護師に来ていただき、外国人が実際にお医者さんにかかる練習をしたり、あるいは靴屋を借り切って自分の足に合う靴を選ぶとか、それからホームステイの家へ電話をしてホームステイ先への行き方を聞くとかというふうな、各ポイントポイントで日本語のタスクをして、それでゲーム形式で日本語を使ってみるというプログラムを実施しました。こういう事業をしますと、県国際交流センターは非常に喜び、自分たちの場所を使ってくれたらこれがテレビのニュースになるということで、賛同してくれて、外国人も楽しく勉強ができて、そして地域の人と実際に触れる、地域の人には初めてこんなに外国人が日本語を勉強しているのかということを知ってくれという効果もあり、好評で3、4回続きました。今では、愛媛大学の日本語教育の中にも取り入れられております。

日本語教師養成講座というのも開設されて、そこの受講生などをまた会員として勧誘しました。それから今では県の委託事業でクラスレッスンをたくさん実施しており、現在の発展になっていったわけです。

◆精神はボランティアでも授業はプロに徹し

発展の要因として申し上げたいのは、まず三位一体の連携があるということです。私どもボランティアがそろっていたということ、そして行政、県国際交流セ

ンターであるとか、あるいは松山市の国際交流センターであるとか、各企業、そういうようなところが非常に熱心に支援してくれたということ、そして周りに愛媛大学、松山大学、東雲女子大学という大学がそろっており、その日本語指導の先生方との連携、あるいはJASLから育ちまして大学の方で教えることができるようになるかというふうに、この三位一体の連携が続いているということが発展の要因のひとつかと思えます。

また、運営方法はこの会則にのっとった民主的な合議制であるということが大きいと思います。個人の意識としては勉強したい、非常に勉強意識が高いボランティアがそろっており、「何でそんなにたたかれてもたたかれても模擬レッスンをするの」と聞きましたら、「やはり外国人の前で恥をかかないために私は勉強する」とか言うような人もおりまして、現在最高齢の75、6歳の方も現役として毎週指導したりします。現在、ホームページ (<http://www7.ocn.ne.jp/~e-jasl/>) も作成しております。

主な活動といたしましては、日本語のプライベートレッスン。これは外国人の要望に応じて空いている時間にそれぞれプライベートで赴きます。会場はほとんど県国際交流センターなので、使用料はいりません。県国際交流センターがいっぱいのときは、松山市国際交流センターも使わせていただくことができます。それから愛媛県から委託を受け、国際交流センター主催の日本語集中講座をやっています。また、海外技術研修員の日本語講座も1カ月ほど担当しまして、それから中国人技術研修生、それはだいたい外国人のJITCO＝財団法人国際研修協力機構（研修・技能実習制度）＝のプログラムのひとつですが、こちらの方も随時担当しています。自主勉強会も開いています。会員が毎週月、火、金曜日あるいは隔週の土曜日に集まり、指導の仕方についての検討会をしています。それから講師を招いての研修会、これは大きな会ですが、年に1回から2回開催しています。また、県国際交流センター主催の日本語集中講座に向けてのオリジナルのテキストを作成しました。松山市に関係のあるような語彙を入れたテキストにしています。そのほか日本語教育に関するすべての活動をやっています。勉強会では、皆会員で模擬レッスンをして、できるだけ絵カードを用いたり、媒介語を使わない日本語だけによる日本語教育の指導の練習をしています。

「えひめJASL」は、精神はボランティア、だけれども授業はプロで、そして学習者とそれから教師とは「お互いが学び合う同士」ということを合言葉にしております。